

令和3年11月相模原市教育委員会定例会

日 時 令和3年11月1日(月)午前9時30分から午前10時49分まで

場 所 相模原市役所 第1特別会議室

日 程

1.開 会

2.会議録署名者の決定

3.議 事

日程第1(議案第29号) 令和3年度相模原市教育委員会の所掌に係る予算の補正について(教育局)

4.報告案件

日程第2(報告第18号) 令和3年度全国学力・学習状況調査の本市の分析結果について(教育センター)

出席した教育長及び委員(6名)

教 育 長 鈴木英之

教育長職務代理者 小泉和義

委 員 平岩夏木

委 員 岩田美香

委 員 宇田川久美子

委 員 白石卓之

説明のために出席した者

教 育 局 長 杉野孝幸 教育環境部長 井上 隆

学 校 教 育 部 長 細川 恵 教育局参事 兼 杉千秋  
兼教育総務室長

教育総務室総括副主幹 的場秀剛 教育環境部参事 佐藤洋一  
(総務企画班) 兼学務課長

教育環境部参事 栄 宏海 教育センター所長 宮原幸雄  
兼学校施設課長

教育センター担当課長 奥津光郎 教育センター指導主事 表木 誕  
(研究・研修班)

教育センター指導主事 中 里 勝 也

事務局職員出席者

教育総務室主任 島 崎 順 崇 教育総務室主任 高 橋 亮

開 会

鈴木教育長 ただいまから、相模原市教育委員会11月定例会を開会いたします。

本日の出席は6名で定足数に達しています。

本日の会議録署名につきましては、小泉委員と平岩委員を指名いたします。

それでは、日程に入ります。

はじめにお諮りいたします。本日の会議の日程1、議案第29号、「令和3年度相模原市教育委員会の所掌に係る予算の補正について」は、会議規則の規定により公開しない会議として取り扱うことに、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

鈴木教育長 では、ご異議ございませんので、本日の会議のうち、日程1については公開しない会議といたします。

なお、公開しない会議とする案件は、会議の最後に審議することといたします。

令和3年度全国学力・学習状況調査の本市の分析結果について

鈴木教育長 それでは、日程2、報告第18号、「令和3年度全国学力・学習状況調査の本市の分析結果について」、事務局より説明をいたします。

宮原教育センター所長 それでは、令和3年度の全国学力・学習状況調査の結果と分析、課題解決のための方針について説明させていただきます。

はじめに、私の方から調査結果の簡単な概要について説明いたします。分析の内容や課題改善のための方向性につきましては、各担当から説明をさせていただきます。

まず本年度の調査についてでございますが、小学校6年生を対象に国語と算数、中学校3年生を対象に国語と数学が実施されました。また、質問紙調査も併せて実施されております。

調査結果の概要についてですが、国語や算数・数学の調査結果につきましては、全国の結果とほぼ同程度であったと捉えております。全国との平均正答率に最も差がありましたのは小学校の国語でしたが、その差はマイナス2.7%となっており、分布にも大きな違いはございませんでした。

次に質問紙調査についてでございますが、ICTの活用に関する項目について肯定的な回答をした児童生徒の割合が全国と比較して非常に高いという特徴がございました。これは本市がプログラミング教育やGIGAスクール構想に先進的に取り組んできた実態を顕著に示すものであると捉えております。

それでは、各教科の詳細につきましては、担当よりご説明させていただきます。  
表木教育センター指導主事 今回の全国学力・学習状況調査国語科において、特に課題となったことをお伝えいたします。

まず、小学校のスライドの8、9をご覧ください。

小学校では読むことについて、目的に応じて、文章や図表などを結び付けて必要な情報を見つけ、条件に合わせてまとめることや、目的に応じて、中心となる語や文を見つけて要約することに課題が見られました。

また、知識及び技能については、学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことや、文中における主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係を捉えることに課題が見られました。

続いて、中学校のスライド7、8をご覧ください。

中学校では、読むことについては、文章に表れているものの見方や考え方を捉え、条件に沿って自分の考えを記述することに課題が見られました。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項については、相手や場面に応じて敬語を適切に使うことに課題が見られました。

このことに関して、小学校のスライド10をご覧ください。ここからは特に課題のあった2つの設問を取り上げています。そのうちの1つを紹介します。

スライドの13をご覧ください。

こちらは目的を意識し中心となる語や文を見つけて要約することができるかどうかを見る設問で、「よさ」と「使われ方」について、条件に合わせて書く設問です。条件は、面ファスナーのよさを取り上げて、国際宇宙ステーションでの使われ方について書くこと。資料から言葉や文を取り上げること。50字以上70字以内で書くことの3つです。

本設問の正答率は全国が29.7%に対して、相模原市は30.2%で、全国と比較してプラス0.5ポイントでした。回答類型については5が最も多く、条件bの国際宇宙ステーションでの使われ方は書けたけれども、条件aの面ファスナーのよさを書くことができなかったものが41.6%と非常に高い数値を示しています。

14のスライドに考察をまとめました。上から3つ目の四角です。指導に当たっては、同じ文章でも、要約する目的によって内容の中心となる語や文が異なる場合があることを確認し、例えば「使われ方」や「よさ」など、複数の条件を基に言葉でまとめる学習活動を取り入れることが効果的だと考えます。

この問題が象徴していることに加え、記述式の問題形式に課題があることを踏まえ、小中共通して、読んだことを基に条件に沿って自分の考えを記述することに重点的に取り組む必要があると捉えました。加えて、知識及び技能として、小学校では、漢字を書くことや主語と述語との関係とを捉えること。中学校では、敬語を使うことについても取組が必要だと考えました。

その具体的な取組として小学校の15のスライドをご覧ください。ここからは指導の改善に向けての取組を提示しています。

2つございます。まず1つ目は、「授業づくりシート～国語編～」を活用するということです。国語科の授業づくりで大切にしたい事柄を1枚にまとめたシートです。このシートを基に授業をつくることで、子どもたちに確実に力をつけることに近づいていきます。今後も研修等で配付し、活用を促します。

指導の改善に向けての取組の2つ目は、書く活動に重点的に取り組むことです。その中の1つ目は漢字指導についてです。「知って、使って、よさを味わう」をキーワードに、単なる繰り返しの練習から、学習した漢字を日常生活で適切に使えるようにすることを意識した指導を行うことを大切にしていきます。

例えば、学習した漢字で文づくりをすることや書いた文章を読み直し、漢字で書くことができる言葉はICTや辞典を用いて調べて、書き直すことが効果的ですので、今後、推進していきます。

中学校については、語句の指導として、同様のキーワードで取組を提示しています。

書く活動に重点的に取り組むことの2つ目は、書く活動そのものについてです。自分の考えを分かりやすく整理して書く力を付けるために、「時間」「字数」「条件」という3つの「じ」をキーワードに、書く活動を積極的に取り入れていきます。

例えば、時間は「5分」、字数は「200字」、条件は「一番心に残った叙述を用いて」や「よさを取り上げて」等を指導すること及び各学年の実態に応じて設定することを大切にしていきます。この取組に関しましては、学校がすぐに活用できるシートを研修等で配付し、活用を促していきます。

以上、大きく2つの取組を研修等で周知し、推進していきます。

国語科については以上です。

中里教育センター指導主事 続きまして、小学校の算数の結果、考察についてお伝えいたします。小学校・算数のスライドをお手元にご用意ください。

スライドの2枚目を見ていただければと思います。表とグラフをご覧ください。平均正答率は全国にやや及ばなかったものの、中央値、最頻値は一致しており、全国平均とほぼ同様の結果となりました。

次に、スライドの3枚目をご覧ください。

学習指導要領の領域別に見ますと、全国平均と比較して、データの活用の領域でプラス0.3ポイント。数と計算の領域において、マイナス2.9ポイントとなりました。問題形式別に見ますと、記述式の正答率がマイナス2.2ポイントとなっており、国語と同様、やはり書けないという課題が見られました。

スライドの4枚目と5枚目には、問題別の正答率一覧を載せてあります。ご覧いただければと思います。

スライド6枚目から9枚目までには、正答率の高かった問題と低かった問題について、問題の趣旨を挙げて示しています。基本的に90%以上の正答率であった問題に「できている」、80%以上90%未満の問題に「概ねできている」、60%未満の問題に「課題がある」としてはいますが、一部基準をクリアしていても、問題の難易度から鑑みて、「できている」と表記していない問題もあります。

次に、課題の見られた問題について説明させていただきます。スライドの10枚目、問題番号2の(1)をご覧ください。スライドの10枚目になります。

この問題は、図1の直角三角形の面積は、何 $\text{cm}^2$ ですかというすごくシンプルな問題になっています。この正答率が相模原市は55.6%となりました。

問題の紙面に対して、下側にある辺を底辺と見る、そういった誤認が子どもたちの中にあることを示しているかなと思います。3cm、4cmという位置関係を見て、底辺と高さが認識できなかったと思われます。

次にスライドの11枚目、問題番号の4(2)をご覧ください。

8人に4Lのジュースを等しく分けます。1人分は何Lですか。求める式と答えを書きましょうという問題でした。4÷8と正しく式を書き、0.5または2分の1と答えられた児童の割合は52.9%でした。多くは8÷4=2ということで回答していて、この割

合が37.3%となっております。もし仮に2Lと答えを出したときに、8人に分けたらどうなるかなということを考えると16Lになってしまうのでおかしいねというような、事象に戻して考えるという指導改善が考えられます。

その下、問題番号4(3)、スライド番号12をご覧ください。

こちらは14mのテープと20mのテープについて、14mは20mの何倍か、ゆうまさんが説明しているという問題です。ゆうまさんの説明を基に、12mのテープと30mのテープについて、12mは30mの何倍かということを説明すればよい問題です。これはゆうまさんの説明を基にして考えればそれほど難しくない問題かと思いますが、相模原市の正答率は52.9%となりました。また無回答、書けなかった児童が14.3%おりました。

これらを基に、この度、資質能力の3つの柱ごとに指導の改善に向けて力を入れていきたいことを整理しております。

スライド番号13は、学びに向かう力、人間性等について指導改善の方向性を示しています。事象から問題を練り上げる場面、数学的に解決した結果を事象に戻す場面の指導に力を入れることです。

スライド番号14、知識及び技能については、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身につけるということを明示しました。改善の方針としては、授業の最後、「わかった」で終わらずに、もう一度自分でできるかなということで、問題を理解して一人ひとりができる、そういった授業のスタイルを先生方に提案していきたいと思っております。

最後、スライド15になります。

思考力、判断力、表現力等の育成に向けては、数学的に説明することができるようにするというので、とかく、説明をするという場面においては、算数の得意な子が前に出て説明をしている場面をよく見ますが、そうではなくて、児童一人ひとりが説明をする場面というのをつくっていく必要があると考えています。そのためにはペアトークや一人ひとりにノートの記述をさせる、そういった指導を徹底していくことが大切であると考えています。

続きまして、中学校の数学の説明させていただきます。中学校の数学のスライド、2枚目をご覧ください。

平均正答数でマイナス0.2ポイント、平均正答率ですとマイナス0.6ポイントとなりました。中央値最頻値でマイナス1となっておりますので、分布の様子としては1つ左側に

ズレたような形になりました。

次に3枚目のスライドをご覧ください。

学習指導要領の領域別に見ると、1番下がったのが資料の活用の領域、相模原市の平均正答率51.9%、全国は53.8%となりました。また評価の観点別に見ますと、数学的な技能のところ相模原市で73.2%対して、全国が77.7%となっております。

こちらにつきましては、その下にあります4枚目のスライドの問題番号1、2です。

計算をすとか、それから一元一次方程式で表すといった、基本的な技能の部分が伸びなかったところがこのようになっていると思います。また、問題形式別に見ますと、短答式、記述式の問題にやはり課題が見られました。記述式については全国平均を上回っていますが、平均正答率としては36.2%となっており、課題が見られると考えています。

続いて、6ページから9ページまでにつきまして、先ほどの小学校と同じなのですが、「概ね満足できる」、「概ねできている」としたところにつきましては、70%から90%までの幅のところを「概ねできている」と付しているところが、小学校との違いとなっております。

続いて、課題の見られた問題について簡単に説明させていただきます。10枚目のスライド、問題番号4についてです。

こちらの問題は、長さが1mの棒を地面に対して垂直に立てたときにできる影の長さについて、ある日の午前8時から1時間おきに午後4時まで調べたという事象になっております。表にまとめてある様子は、日が最初は低いところから高いところに登って、また沈んでいくそのときの影の長さを表していますので、最初、影は長くて、だんだん短くなって、また長くなっていく。その様子を数学的に表現したものになります。この経過した時間と影の長さについて関数関係、一方の値が決まればもう一方の値もただ1つに決まるという関係を捉え、影の長さは経過した時間の関数であるという言葉で表現できるかという力を見る問題でした。相模原市の正答率は45.1%となっております。これを、経過した時間は影の長さの関数であるという逆の形で書いたのが32.2%ありました。

11枚目のスライド、7番の問題をご覧ください。

こちらは2分間スピーチに用いる砂時計をペットボトルでつくったところから砂の重さと砂が落ちるまでの時間を関数関係と捉え、2分間を計るために必要な砂の重さについて説明をするという問題になっています。こちらについてはグラフ、式、表や数値などの中から用いるものとして、どれか1つを選択し、その使い方として、例えばグラフを

用いた場合には、 $y = 120$ のときの $x$ 座標を読めばよい、などのように解答する問題です。この説明ができた生徒は27%でした。

8番の問題の詳細については割愛しますが、総度数が違う場合に、相対度数で比べるその理由はどうしてですかという単純なことを聞かれた問題でした。なぜ相対度数を用いて比べるのかということについて理解できている生徒が36%でした。

最後、資料において力を入れていきたいこととして、13から15までのスライドにまとめてあります。基本的には小学校と同じ課題が見つかったかなと考えております。14枚目のスライド、知識及び技能について、小学校の文言に加えているところは、概念的な知識の理解を問うような問題を発問するということについて力を入れてくださいということで、先生方に伝えていきたいと考えております。

以上で算数、数学の説明を終わります。

奥津教育センター担当課長 それでは、私からは児童生徒質問紙に関する内容をご説明させていただきます。

資料の 基本的な生活習慣をご覧ください。

質問1、朝食を毎日食べていますか。質問2、毎日同じ時刻に起きていますか。については、いずれも9割程度の児童生徒が肯定的な回答をしており、基本的な生活習慣が身に付いている児童生徒が多いことが分かります。反面、質問4、スマートフォン等の使い方については家庭のルールがないと回答した児童生徒の割合及び質問5、平日のゲームやスマートフォンの使用時間が1日当たり3時間以上と回答した児童生徒の割合は、全国と比較して小中学校ともに高い傾向にあります。家庭学習の定着や休養時間の確保等、子どもたちの心と体の健康につなげていくため、学校と家庭が連携していくことが大切であると捉えております。

続いて、資料 自己肯定感、挑戦心、達成感をご覧ください。

質問6、自分にはよいところがあると思いますか等、自己肯定感に関わる質問に対しての児童生徒の肯定的な回答の状況は全国とほぼ同じか、もしくは全国をやや上回る傾向となっております。

本市では、子どもたちの自己肯定感を高めるためにキャリア教育の推進を掲げ、学校と家庭、地域が連携して、児童生徒のよさを大切にしながら認め、励ます取組を進めておりますので、今後も学校と家庭、地域が一体となってキャリア教育の取組を継続していくことが大切であると考えております。

資料 学習習慣については、小中学校ともに全国平均と同程度となっております。また、令和元年度と比較すると、小中学校ともに肯定的に回答した児童生徒の割合は上昇しております。

続いて、資料 地域・社会との関わりをご覧ください。

この項目については、全国や県と比較して、肯定的な回答の割合が低い傾向にあります。ただ、市内でも地域による違いが見られました。クロス集計の結果からは、質問25、地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがあると回答した児童生徒ほど、教科の正答率が高くなっていました。各教科等で身に付けた力を地域や身の回りにある諸課題の解決に生かすことができるように主体的に関わる力を伸ばす教育を推進していくことが大切であると捉えております。

次に、資料 ICTの活用をご覧ください。

ICTの活用状況に関する質問事項については、全国よりも非常に高い傾向にあることが分かりました。これは、本市がプログラミング教育に先進的に取り組んできたことや、「さがみはらGIGAスクールハンドブック」を作成、配付し、各教科等の指導において活用を推進してきたことが要因であると考えております。

続いて、資料 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況をご覧ください。

肯定的な回答状況から、児童生徒が日頃の授業において、問題や課題解決に主体的に関わり、対話を通して学習を進めていることが分かります。

最後に、資料 新型コロナウイルス感染症の影響による学校の臨時休業と児童生徒の学習状況等についてでございます。

この結果からは臨時休業期間中、勉強において不安を感じていた児童は半数を超え、特に中学校においては6割を超える結果となりました。また、左下のグラフ、休校期間中に計画的に学習を続けることができたかについては、小学校と中学校で大きな差が見られました。右下の臨時休校期間中ではない、同じ内容の回答と比べてみますと、特に中学校においては、臨時休校期間中に計画的に学習を続けることができなくなったとする割合が多いことが分かります。

規則正しい生活習慣を確立するとともに、自律した規則正しい生活を送る大切さについて伝えていく必要がございます。

令和3年度全国学力・学習状況調査の本市の分析結果については以上でございます。

鈴木教育長 説明が終わりました。これより質疑、ご意見がございましたらお願いいたします。

小泉教育長職務代理者 細かな質問と分析等、よく分かりました。

いろいろな課題が今回も挙げられたと思うのですけれども、今まで、例えば10年間でどうだったかみたいな。長期の展望の中で経年変化というのは、顕著なものはあったのでしょうかということと、あと算数と国語では、指導の改善に向けての特に力を入れてきたこと、特に算数においては資質・能力が3つの柱で分析はしているのですが、国語はそうではないという。その違いは何か理由があるのでしょうか。まずは、そこを聞かせてください。

奥津教育センター担当課長 それでは、私の方では経年による変化について。私がお説明させていただきました 自己肯定感の部分についてご説明させていただきます。

この自己肯定感の取組につきましては、本市でも進めておりますキャリア教育の取組から、この質問6「自分にはよいところがあると思いますか」という項目については、経年で追っているところでもございました。6年、7年ほど前から追っておりますと、この項目において全国を上回ったことが令和元年度までは一度もございませんでした。令和元年度において、初めて小学校において全国と同等の回答率を得まして、そして、今年度においては、中学校において全国や県とほぼ同等と申しますか、県を超えるような数値が挙がってきたというところでございます。

この辺の自己肯定感の取組については少しずつでございますが、本市の子どもたちの成果として挙げられるのかなと考えております。

中里教育センター指導主事 算数と数学について、三本の柱で整理したことについてお伝えさせていただきます。その前に、まず過去の傾向についてですけれども、知識・技能について、基本的な計算の技能であるとか、すごく基礎的な概念を問う問題などについて、全国の平均値と比べてやや下回るということは傾向として続いているのはあるかなと思っております。

これについては方向性として、授業の真ん中で一度まとめというのを行って、一人ひとりに学習を返していくような授業のスタイルを確立していくことで、十分に理解できていない、または十分に技能が定着していないという子について1時間、1時間、先生がきちんと見とった中で次の指導に生かしていく、そういった授業スタイルを提案できるのではないかと考えております。

この柱で整理したことについては、質問紙調査の中で、算数・数学は日常生活の中に役に立つみたいなところのポイントが特に低かったこともあり、まずはその学びに向かう力と知識・技能・思考力・判断力というのが、どのように相互に関係し合って育成できるのかということについて提案したいなと思って、このような形で整理をいたしました。

表木教育センター指導主事 国語科におけるこれまでとの比較ということで、お話しさせていただきたいと思います。

まず中学校ですけれども、問題の質等によりますけれども、中学校は今回、全国の平均正答率が64.6%に対して、相模原市は65%ということで0.4ポイントのプラスでした。それ以外のものも、プラス0.7、0.5、0.6ということでほとんどプラスになっています。前回、令和元年度は0.7、0.2、1.7ということで全てマイナスだったのですね。

ということで、問題の質にもよりますけれども、中学校においては成果が見られるなということで捉えています。ただ、その前の平成30年度以前と比較するということなのですけれども、そちらで実施された問題がA問題、B問題と分かれていて、令和元年度からA・B合体して、1つの調査問題になりましたので、その比較がなかなかふさわしいかどうかというところで今、若干こちらで分析はしているのですけれども、現段階ではお話しするのが難しいかなと思っております。

次に小学校ですけれども、全国の平均正答率が64.7%に対して、相模原市が62%ということでマイナス2.7ポイントでした。令和元年度はマイナス3.8ポイントということで、全国との差が大分縮まってきているかなということでございます。

中身をもう少し具体的に申し上げますと、話すこと・聞くこと・読むことについては、全国と比較すると前回マイナスだったものが今回はプラスになっている。ただ、先ほど課題として挙げた書くこととか、あとは漢字等々につきましては、マイナスになっているということで、その課題に全力で取り組んでいくというところでございます。

以上です。

小泉教育長職務代理者 あとは、最終的には学校現場の先生たちの頑張りというところもあるかと思うのですけれども、教育委員会としては研修であるとか、情報発信というところで、より高めていこうということで、またちょっと戻りますが、学校現場として、これを受けて、このような工夫をして学力向上に努めている。また成果として挙がっているというような実例、また言い換えると、それをさらに他校に発信するというような、そ

ういう取組はされているのでしょうか。

奥津教育センター担当課長 それでは、全国学力・学習状況調査の結果を受けまして、10月末に行いました、国語科担当者研修講座、算数・数学科担当者研修講座というものの様子についてお伝えさせていただきます。

今回の、この結果・分析を踏まえまして、教育委員会としてまとめ、それを周知するだけでは不十分だと思ひまして、いかに現場の先生方に必要性を伝え、それを実行していただくというところまでをどう描くかというのを考えて、今回、この働き方改革の中で研修も減らす方向性ではあるのですが、今申しました研修講座については追加したものでございます。

この国語科、そして算数・数学科の担当者講座は、ここにいます指導主事が練りに練って2時間の研修をさせていただきましたが、研修講座の振り返りの中に、すごく光るものを見つけましたので、それをちょっと紹介させていただければと思います。

まず、国語科でございますが、先ほど表木から3つの「じ」というキーワードについてお伝えさせていただきましたが、「課題を踏まえて、これからは振り返りや書くことにおいて、目的を明確にして取り組めるようにしていきたい。特に3つの「じ」は校内に広めて、全学年で意識して取り組んでいきたいと思ひます。」というような感想がございました。

また、算数・数学科におきましては、先ほどの中里からも説明がありましたが、「特に説明する力がないということが課題に挙がっておりましたので、事実・方法・理由の点はしっかりと押さえていきたいと思ひました。普通の授業から扱い、習慣化しなければ、それを発揮することはできないと思ひますので、ペアワークなどを活用して、全員が参加できる、説明できるような展開を心がけていきます。」というようなものがございました。

今回、参加者を担当者と申しましたが、一担当者が「勉強になった」、そこで終わらないよう、校内にしっかり周知を図っていただけますように、教務主任や授業改善リーダー等、広く学校を俯瞰できるような方にお越しいただきたいということで、このような研修を行ってございます。

私からは以上でございます。

小泉教育長職務代理者 現場のその工夫したところなどは、吸い上げて発信しているのでしょうか。

中里教育センター指導主事 今、提案させていただいた、全員に最後返して、全員ができ

るようになったのを見とっていきましょうという授業スタイルを、実際に、ある小学校で1年間かけて既にやっていただいています。

正直、学力的に厳しい学校ではあったのですが、4年生の調査、5年生の調査、そして学力・学習状況調査の結果と全てで5ポイント上がっているということが確認できている学校も実際にあります。先生方が共通理解を図るまでに時間がかかったりするので、すけれども、きちんとその方法を理解することで、また学力を上げていくことができるのではないかなと考えています。

小泉教育長職務代理者 学力関係は相模原市の課題でもあります。そういった意味でも、まず頑張ってもらいたくのは学校現場の先生方であり、また行政のサポートだと思っています。

もう1つプッシュするといいいのは、家庭との連携をさらに強化すると、結果がどうこうではないのですが、子どもたち一人ひとりの、先ほどのキャリア教育というものもありましたけれども、明るい人生によりつながるのではないかと考えております。

よろしくをお願いします。

平岩委員 この学力については、数年前から課題になっていまして、全国と比べ大変に差があったのですが、平均に近づいてきたということで、これはいい傾向だと思います。

ただ、全国と比べて低かったというときに、家庭の子どもの貧困ですとか、家庭環境というのが問題として出てきていました。

今回のこの報告の中で、地域と社会の関わりについては、市内でも地域により違いが見られたという言葉があったのですが、ほかのところに関してはどうでしょうか。貧困等という問題のときに地域によって差があるということが以前あったと思うのですが、その辺の分析はされておりますでしょうか。

奥津教育センター担当課長 今、貧困の話題等もございましたが、そういったところについての詳細な分析まではしておりませんが、こちらの地域と社会との関わりによる地域の差については、緑区がとか、区単位で大きく分けることは難しいかと思っております。中学校区や、それぞれの学校ごとに差もあるところもございました。

ただ、地域として子どもとの関わりが根づいているような、子ども会であったり、そういった組織が今も色濃く根づいている学校においては、比較的高い数値があったと捉えております。

平岩委員 細かいところはまだということだったので、こういった対策、これ

からのことに関しては、全部の学校に対して同じようにやっていくのも大事だと思いますが、やはりもう少し細かくして、このところにはこういうふうなという、そういった対策も必要なのだと思います。

それから、規則正しい生活習慣だとか、ゲームの時間だとか、そういったものは小泉教育長職務代理者もおっしゃっていましたが、家庭の親との関わり方とか、そういったところが大きいので、子どもだけの問題ではなくて、保護者に向けての指導というか、そういったところもお願いできたらと思います。

奥津教育センター担当課長 まず保護者の方への啓発でございますが、先ほどの児童生徒質問紙、下から2行目のところに生活習慣改善出前講座という名称がございますが、児童生徒、保護者に対しまして、教育委員会として規則正しい生活習慣や家庭学習の定着、それから家庭における自己肯定感の育成に向けた取組等を周知しているようなことを学校に出向かせていただいて取り組んでおります。

また、先ほどキャリア教育という名称が出てまいりましたが、今、本市では、キャリアパスポートという取組を行っております。このキャリアパスポートに関しては保護者と連携しながら取り組んでいる学校もございまして、具体的に保護者の方から、子どもたちが日々記録している振り返り用紙とキャリアパスポートを見る中で、学校での頑張る姿を知るよい機会になったとか、親の思いを伝えるよい機会になっていると。ともに成長を見ながら育てていくようなツールになっているというような書き込みもあることも承知しておりますので、今後もこういった好事例を市内に広めながら進めていきたいと思っております。

平岩委員 そういったことをやっていただくことは大変ありがたいのですが、生活に追われて、学校行事ですとかに参加できない家庭というのは、やはり子どものいろいろな生活習慣に影響が出てくるのだと思うので、そういった方に向けてのこともぜひ、何か考えていただけたらと思います。

杉野教育局長 昨年、私は、こども・若者未来局の方で次長をさせていただいた中で、ひとり親家庭に対する学習支援というのを、基金を使って行いました。やはり生活習慣が伴っていないと学力は上がらないという形で、人数としては約130人なのですが、生活習慣をきちんとやると、やはり学力が非常に上がっているというような状況でした。これは経年的にそのような状況が見えてきていて、今、委員がおっしゃったようなことはすごく重要なことだと思っておりますので、そこはきちんと変えていきたいと思っております。

そのようなことをやると昨年は、学力を何ポイントも上げてかなり優秀な高校に進学しているというお子さんが実際に出てきていますので、それは効果がある、そういった生活習慣のところは今後、公立の中学校、小学校でも同じのようにやっていかなければならないと思います。

以上です。

鈴木教育長 平岩委員がおっしゃっていたお話というのは、確かに重要な視点で、本当は支援が必要な方に、その情報が届いてないというのは数年前から問題になっていて、家庭で働くので忙しくて、それは自分は知らなかったとか、そういうことで、こども・若者未来局の方でアウトリーチ的な支援をしていって、支援が必要な方を見つけていくと。待っているのではなくて、こちらから出向いて。

ただ、もっともっと取組が必要かなというのは感じています。

白石委員 今、小泉教育長職務代理者、平岩委員からもお話がありましたように、学校単位で恐らく、この格差はかなりあるという現状があるかと思うのですね。かつ、恐らく、そういう格差の中で低くなってしまっている学校の子どもたちは、もしかしたら自己肯定感が低めになりがちだったりすると思うのです。多分、今の家庭の事も含めて、やればできると思っているか、どうせ僕なんかと思っているか、その違いが非常に学力にも影響、前向きに取り組めるかどうかという意味で、大きな影響を与えているのではないかなと思います。

そういう中で、どうせ僕なんか、自分なんかと思っている子どもたちは、恐らく今までの関わってきた先生だったり、友達だったり、それから学校の中での人間関係、あとは家庭の中で、そういうものが埋め込まれているのだと思うのです。

やはりそこを変えてあげるには、ほかの大人なり、地域なり、ほかの人たちとどうやってつながっていけるかというところが大きなポイントではないかなと思います。恐らく、学習塾に行けている子どもたちは、そういう中で、またそういう刺激を受けてやればできるという思いを抱いたりもしているのでしょうけれども、行けなければそのままになってしまう。

今お話がありましたように、地域の中で子どもの無料学習塾をやっていたり、こども食堂もありますけれども、様々なことが行われていますので、ぜひ学校の側からも、そういう情報を掴んで、地域にこういうところがあったらどうですかというような提案などもしていただければ、社会教育、公民館でそういう活動しているところもたくさん今、出てき

ていますので、是非、そういうところにもつなげていただければと思います。

その時々全国平均と比べるだけでなく、今までお話がありましたように、今まで相模原市の子どもたちはこうやって、どうやって上がってきているかというところを見ていただければと思いますし、今まで低かった学校がすごく今、伸びているとか、そういうところは、また称賛をしていただけて、広げていただきたいと思いますので、引き続き頑張ってくださいと思います。よろしく申し上げます。

鈴木教育長 小学校の国語、中学校の国語を見ると、全体的には数ポイント、従来よりも改善されたのですが、小学校の国語は全国よりまだ低くて、中学校になると全国平均をやや上回るような。学校の義務教育段階は積み上げだと思うのですが、そこで、中学校で何か特別なことをやっているということがあるのですか。あるいは小学校の高学年で努力をしたのか。低かったものが中学校に行くと平均以上にいくというのは。

表木教育センター指導主事 小学校と中学校の違いということですが、平均正答率だけを見ると小学校がマイナス2.7ポイント、中学校になるとプラス、全国平均とほぼ同等になっているところが今、現状でございます。

そこで、中学校で何かというところで、様々な要因が考えられるかなと思うのですが、これだから中学校が上がったのだという要因が、そこはまだ見えてこないかなというところでは。

ただ、逆に小学校の授業からお話ししますと、小学校が今回、顕著に見られたのが、話すこと、聞くことと、読むことについては全国平均を上回っている。実は、小学校で国語科を研究している学校が多いのです。その中で何を研究しているかというところ、読むことの研究が非常に多いのです。特に文学的な文章を読むというところでは。

ですので、今回の結果を見ても、読むことが全国と比べてプラスになっているということは、研究の成果かなと。また、話すこと、聞くこともプラスになっているという点については、授業を観に行くと、非常に対話的な学習を先生方がされている。ということで、子どもたちは話したり、聞いたりするという力のついてきているのかなと。

ただ、現状としまして、それで終わってしまうことが多い。例えば、授業の最後に、読んだ後に自分の考えをアウトプットするときに、書くという活動までいかない。時間がなくてとか、あとは宿題ねとか、後は次の時間ね、みたいな感じですので、小学校ではやはり、そうした中で書くという時間が非常に少ないかなと考えています。

一方で、中学校の授業を拝見すると、ワークシートなどを見ても非常に書く量が多いの

ですね。ということで、こうした問題が、学力の一部なのですけれども、学力・学習状況調査も書く問題ばかりなので、中学校の子どもたちにとっては、日々の授業の中で取り組んでいるということで、プラスの傾向になっているのかなと考えています。

ですので、小学校から中学校と、小学校の成果でもあるのだけれども中学校でもしっかりと書く活動を行っているというところで、この数値につながっているのかなと捉えています。

以上です。

宇田川委員 今までお話を聞く中で、正答率に関する課題に関しては、研修ですとか、それを通じた授業改善ということで、工夫なさっているのだなということがすごくよく分かりました。

その中でちょっと1点気になったのが、もしかしたら既に分析の視点と対応にも入れられているかもしれないのですけれども、授業改善のほかに、また、貧困の問題とか地域格差というものに加えて、生活様式の変化ということもすごく大きな要因になっているのではないかなとも思われていて、特に新型コロナウイルス感染症の影響で、大人ももちろん、子どもたち、児童生徒の生活環境はすごく変わってくる中で、実体験が全体的に不足していたりとかという、そういった視点からの改善というようなところも今後、考えていく必要があるのかなということを思いました。

以上です。

鈴木教育長 ちょっとそういう視点も加味して改善を図っていただきたいと思います。

白石委員 今のお話にも関連しているのですが、書くことについて、うちの子もなんか見ているけど、宿題が多いのですが、どういうふうに行けばいいのかわからない。見ていると同じパターンの文章しかつくれない。僕は何々で、どうだった。そういう短い文章を幾つもつなげるぐらいの文章力しかないの、辛いのですよね。何か書くにしても、自分の書きたい、表現したいことを書けるスキルがないというか。

だから、その辺の書き方は日本語にも、英語にもつながってくるのだと思うのですけれども、文章は、日本語は主語があって、間にいろいろな修飾語があって、最後に述語があるとか。英語だと主語があって、次にすぐ動詞があってと、その辺の比較などもごちゃごちゃになったりしがちなような気がします。

なので、文章を書くとか、つくるといのはこういうことなのだよということも教えてもらえるともっと、その辺の書くことへの苦手意識とか、その辺も克服されていくのでは

ないかなというような気がしています。

このコロナでやはり、子どもたちの活動量、いわゆる体を動かす機会がすごく減っていて、それがすごく自分の学力とか、何か挑戦するということについて、すごく消極的になっているような気がするのですね。

なので、中学校でいうと部活も少なくなっていて、ろくに練習もしないけど大会だけはあって、さあ、どうしようみたいな。うまくできなかったみたいな。やって頑張れて、次も頑張ろうというより、やはり駄目だったみたいな。そのような感じをすごく受けます。

なので、もう少し体を動かして、やればできそうだなという思いを抱けるような取組もこれからちょっと考えていただきたいなと思います。

以上です。

岩田委員 長いスパンで考えたときに、ICTも入ってきて、タブレットも入ってきて、それは学びとしていいのだけれども、一方で、やはり紙媒体で読んで、鉛筆で字を書くということが減ってきて、だからこそ漢字も書けなくなっているというところの、そのバランスみたいところを、やはり字を追って紙媒体で読むのと、タブレットで読むなり学ぶのは違う学びだと思っていて、その辺のバランスは少し気をつけて見守っていききたいなと思います。

鈴木教育長 よろしいでしょうか。この件はこれで終わりにさせていただきます。

それでは、ここで前回定例会後の私の活動状況等についてご報告いたします。

10月13日、横須賀市の学校給食センターの視察に行っていました。横須賀市では、学校給食センターで中学校給食を9月末から実施したというところがございます。

15日には、文部科学省に行っていました。本市としていろいろな意味で経済対策というか財政支援のお願いをしてみました。省庁の偉い方が少なかったのですが、そういう中でも、今の子どもたちの状況、それから本市でも、やはり教員が足りないという窮状を訴えてまいりました。

それはどういうことかと言われたのですが、多様化している中で、支援が必要な子どもが増えていたり、家庭環境、いろいろな困難な状況を抱える家庭もあるので、先生方はいろいろな頑張っているのだけどやるのが当然、多くなっている、学習指導要領もそうですけど。そういう話をさせていただきました。

それから、10月16日の土曜日は富士見小学校の創立20周年記念事業、記念式典にお邪魔して、ご挨拶をさせていただいて、平成13年のときにご承知のとおり、清新小学

校が当時児童数日本一で1,800人を超えていて、中央小学校は1,500人を超えていて、さらには麻溝小学校が1,000人を超えていた。その状況をどうにかしなければならぬということで、小山小学校、富士見小学校、夢の丘小学校の3校をつくったのですが、それからもう既に20年が経過したというところでございます。

子どもたちも20年というと、人間で言えば成人式なので、そういう意味で、子どもたち自らがその20年の歴史を振り返ったり、劇をつくったり、そういうので発表、あるいは歌を見て、聞いてまいりました。

21日には、オンラインで中央区の小中学校に参加いただいて、いじめ防止フォーラムに小泉教育長職務代理者等と一緒にってきました。

それから、10月24日、さがみ風っ子教師塾の開講式がございました。近年になく、参加者は多くて、去年は50名を少し切ったのですが、今年は最終的に63名の方に参加いただいたと。

そのほか、ちょっと学校周りをさせていただきました。

では、ここで次回の会議予定日を確認いたします。次回は12月24日、金曜日、午後2時30分から第3委員会室で開催する予定でよろしいでしょうか。

それでは、次回の会議は12月24日、金曜日、午後2時30分からの開催予定といたします。

ここで暫時休憩いたします。なお、再開後の審議については、公開しない会議といたしますので、関係する職員以外の方は退出してください。

(休憩・10:32～10:39)

#### 令和3年度相模原市教育委員会の所掌に係る予算の補正について

鈴木教育長 休憩前に引き続き、会議を続けます。

日程1、議案第29号、「令和3年度相模原市教育委員会の所掌に係る予算の補正について」を議題といたします。事務局より説明をいたします。

井上教育環境部長 議案第29号につきまして、ご説明申し上げます。

本議案は、令和3年度相模原市教育委員会の所掌に係る予算の補正について、相模原市長から意見を求められたため、これに同意いたしたく、提案するものでございます。

議案第29号別紙、令和3年度相模原市一般会計補正予算第8号教育委員会所掌分の8ページをお開きいただきたいと思います。と存じます。

はじめに、教育費全体の補正についてご説明申し上げます。

「款 50 教育費」でございますが、補正前の歳出予算額 445 億 4,872 万円に 26 億 4,697 万円を増額し、計 471 億 9,569 万円とするものでございます。

次に、補正の主な内容についてでございます。「項 5 教育総務費」、「目 15 教育指導費」でございますが、教職員がオンライン学習等に係る ICT スキルを定着できるよう、研修講師を派遣するに当たり 196 万円を増額するものでございます。

「項 10 小学校費」、「目 5 小学校管理費」及び「項 15 中学校費」、「目 5 学校管理費」でございますが、それぞれの説明欄 1、小学校運営費及び中学校運営費につきまして、感染症対策の強化に必要となる保健衛生等に係る消耗品を学校再配当予算で購入するに当たり、小学校費を 1,010 万円、中学校費を 528 万円増額するものでございます。

それぞれの説明欄 2、小学校教材等整備事業及び中学校教材等整備事業につきましては、教材の提示や児童生徒の発表等の活用により共有を図るための大型テレビが一部故障していることから、更新するに当たり小学校費を 1,807 万円、中学校費を 1,164 万円増額するものでございます。

「項 10 小学校費」、「目 20 学校建設費」及び「項 15 中学校費」、「目 20 学校建設費」でございますが、それぞれの説明欄 1、小学校校舎改造事業及び中学校校舎改造事業につきましては、校舎の長寿命化改修並びに義務教育学校への移行に向けた鳥屋中学校校舎の改修・増築等を行うに当たり、小学校費を 9 億 7,320 万円、中学校費を 16 億 2,670 万円増額するものでございます。

次に、関連する歳入につきまして、ご説明申し上げます。4 ページにお戻りいただきたいと存じます。

「款 55 国庫支出金」、「項 10 国庫補助金」、「目 5 総務費国庫補助金」でございますが、研修講師の派遣、保健衛生等に係る消耗品の購入及び大型テレビを更新するに当たり、国の新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を見込むものでございます。

「目 45 教育費国庫補助金」でございますが、研修講師の派遣、保健衛生等に係る消耗品の購入に当たり、国の学校保健特別対策事業費補助金を見込むものでございます。

「款 75 繰入金」、「項 10 基金繰入金」、「目 57 学校施設整備基金繰入金」でございますが、鳥屋中学校校舎の改修・増築を行うに当たり、学校施設整備基金繰入金

を見込むものでございます。

5ページをご覧いただきたいと存じます。

「款90 市債」、「項5 市債」、「目40 教育債」、「節5 小学校整備債」及び「節10 中学校整備債」でございますが、校舎の長寿命化改修並びに増築等を行うに当たり、緊急防災・減災事業債を起債するものでございます。

次に関連する繰越明許費補正につきまして、ご説明申し上げます。1ページにお戻りいただきたいと存じます。

「款50 教育費」、「項10 小学校費」及び「項15 中学校費」につきましては、年度内の完了が見込めないことから、令和4年度への繰越明許費を設定するものでございます。

次に関連する地方債補正につきまして、ご説明申し上げます。

教育債でございますが、小学校整備費及び中学校整備費に係る起債額を増額するものでございます。

以上で議案第29号の説明を終わらせていただきます。よろしくご決定くださいますようお願い申し上げます。

鈴木教育長 説明が終わりました。これより質疑、ご意見等ございましたらお願いいたします。

小泉教育長職務代理者 細かな話で申し訳ないのですが、小中学校の教材等の整備事業の中で保健衛生関係のお話でしたか。具体的にどういうものを予算、物品等で扱うのでしょうか。また、テレビの更新ということですが、変な話ですけど支障がなかったのかということと、また、どのくらいの規模で購入するのか。その辺お聞かせください。

佐藤学務課長 まず、学校運営費の中の学校保健特別対策事業費の補助金を充てるものですけれども、これは消耗品の購入ということで、コロナ対策に関する消耗品ということでございます。消毒液ですとか、中には網戸の交換ですとか、そのような施設に関わるようなことまで、この消耗品の中で対応するというところで、基本的に国の昨年度の補助金の上乗せという形になりますので、各学校、児童生徒数の規模に応じて3段階に応じた予算の配分をして、再配当予算で、校長の判断の中で必要な物を買っていただくということを予定しております。

それから大型テレビでございますけれども、支障があったのか、なかったのかということ言えば、今まで平成21年度に導入をした大型テレビが普通教室に置いてあったので

すけれども、それが故障しているものが多かったという点で支障はあったのかもしれないのですが、授業の中でテレビとしての需要はそれほどなかったと聞いております。

ただ今後、GIGAスクールの推進ですとか、タブレットの活用ですとか、ICTを活用した学習に対応するためには、そういったものが必要になるということで、今回、普通教室にある故障した大型テレビを更新の対象とさせていただきます。

これは全校で、小学校、中学校、義務教育学校で合計1,713台、普通教室に置いてあるのですが、そのうち小学校で208台、中学校で134台、合計342台が故障しているということで、この故障しているものを今回、入れ替えをさせていただくということでございます。

以上です。

白石委員 先日ちょっと聞いたのですが、タブレットが発火したというお話があったのですけれども、その後、ほかのタブレットに影響ないのかとか、その辺のことを少し教えていただけると。

宮原教育センター所長 先日のタブレットの発火の件、川崎市で本市と同型のNECのタブレット端末を教室で使うときに子どもがぶつけてしまって、ちょうどバッテリーの部分に圧がかかって、そのために内部で熱を持って、USBポートから煙が出たというような案件になります。

それを受けまして、本市でも持ち帰りをストップするように指示しまして、学校での活用については教員がしっかり様子を見ながら行うということで、活用については継続している、そういった状況になっています。

今後については、今、NECの方と原因の究明をさせていただいているところですが、概ね1週間から2週間ぐらいで第1次の報告ができるだろうと。それを受けて、持ち帰りの再開ということを考えています。

鈴木教育長 よろしいでしょうか。

それでは、これより採決を行います。

議案第29号、「令和3年度相模原市教育委員会の所掌に係る予算の補正について」を原案どおり決するにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

鈴木教育長 ご異議ございませんので、議案第29号は可決されました。

それでは、以上で本日の日程は全て終了いたします。

これをもちまして定例会を閉会いたします。

ありがとうございました。

閉 会

午前 10 時 49 分 閉会